

石和温泉病院 家族会

ブレイクタイムズ



第1回家族会開催

御家族が2名、患者さんが4名の計6名の参加者の方々とサポートメンバーで、3月10日(土)に第1回家族会が当院ミーティングルームで開催されました。

開催にあたり天野達也院長より開催宣言があり、「結論は出せないかも知れないけれど、お互いが悩みを共有し合い、参加してくれる方々が少

しでも前向きになれるような会にしていきたい。我々サポートメンバーも皆さんと一緒に成長できるように頑張ります」とお言葉をいただきました。

その後、元石和温泉病院の看護師

であり、御両親の介護経験がある小宮山典子さんより、介護を通して感じたことや実際の体験談を、

手作りのおいしいスイートポテトやパンを参加者の方々とほおばりながら笑顔の絶えない和やかな雰囲気の中でお話してくださいました。

後半には医療者である我々に対して、介護者の立場を代表して厳しい御意見を率直に述べていただき、我々スタッフも改めて自己の支援を振り返り、自己研鑽の必要性を強く感じました。



開催宣言をする天野達也院長



第2回家族会『ぶれいくたいむ』のお知らせ

日時：5月5日(土曜日)

14時から15時30分

場所：当院2F ミーティングルーム

内容：当院理学療法士による健康教室(肩こり予防や腰痛予防の体操)や参加される御家族同士の相談など

【家族会目的】

- ・御家族同士のコミュニケーションの場の提供
- ・御家族の心的負担の軽減
- ・万人が生活しやすい社会作りへの貢献

目次:

第1回家族会開催	1
第2回お知らせ	1
講演感想	2

講演感想

『本当に必要な支援ができていますか』

『本当に必要な支援ができていますか』

入院している患者さんや利用者さんに対してだけでなく、ご家族に対しても継続的な支援の必要性があるのではないか、という想いのもと集まった家族会の我々若いスタッフに対して発せられたこの言葉。我々の今までの支援を振り返らざるを得ない言葉(課題)を投げ掛けてくれたのは元石和温泉病院の看護師でもあり自らご両親を介護した経験をもつ小宮山典子さんだ。

お話の中では、介護生活を送ることになったきっかけや介護生活の大変だったことなどを分かりやすく語ってくださった。そんな中でも自分の生活を楽しむこと、一人で抱え込まず周りの方々からの協力も得ながら介護していくことの大切さ、介護の生活から得た何物にも代えがたい経験などの話は、御家族にとって勇気を与えるお話だったのではないだろうか。

またお話の中には、介護経験を通して「本当に必要な支援とはどうい



「自分が看護師時代に行った支援についての振り返りができた」

介護生活を送っている御家族が先生

うものなのかを考えるきっかけになった」「自分が看護師時代に行った支援についての振り返りができた」と小宮山さんは語る。「必ずしもその時の支援が本当に必要だったかどうか…」とも。だからこそ我々若いスタッフにあえて課題を投げ掛けてくれた。「本当に必要な支援ができていますか」と。介護経験のない我々スタッフには本当に必要な支援が何かを想像することしかできない。だから

こそ今まで以上に対象者やご家族の生活を考えて必要な支援を提供していかなければならないと強く感じた。

「この経験を何かに活かしたい」と経験を皆に伝えていきたいと、小宮山さんの視線はすでに前を見据えている。また小宮山さんはこうも続けた。「介護生活を送っている御家族は絶対何かしらの工夫をして介護生活を送っている。そんな御家族

今後も・・・

から医療者はもっと学ぶ姿勢をもつことが大切」と必要な支援を提供していく上でのヒントを教えていただき、小宮山さんの講演は幕を閉じた。

会の終盤には参加者の方々からも胸の内をポツリポツリとお話して下さるようになり、一回目の家族会としては大変有意義な時間を過ごすことが出来たのではないだろうか。ただ一つ我々家族会メンバーにとっては大きな課題は残ったが...

一回目の家族会を終えて

与えられた課題は課題として真摯に取り組み、今後も学ぶ姿勢を持ち続け、御家族の方々と一緒に成長していけたらと思うそんな土曜の昼下がりでした。

今後も家族会『ぶれいくたいむ』では皆様のご参加をお待ちしております。 家族会代表 原田 智史



参加者の方々